

みやけの風

第 107 号

平成13年(2003年)1月11日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア 市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmppo.org

明けましておめでとうございます。
 新しい年が、三宅島の皆さまにとって、
 実りある出会いと光と喜びにあふれる年でありますように

三宅島社会福祉協議会からのご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
 被災から2年半にわたり発揮された皆様
 の力には心から敬意を表します。最近
 は、帰島に向けて何かと明るい話題も
 出ており、落ち着かない気分にもなり
 がちですが、このような時こそ心を
 落ち着けて事に処することが大切と
 考えております。
 力が及ばず出来ないこともあり辛い思

をすることもあります。本会は今年も
 皆様や行政と共に、そして支援してく
 ださる全国の皆様の力をお借りしな
 がら全力を尽くしていく所存ですの
 で、どうかよろしくお願い申し上げます。

今年が私たち三宅村民にとって良い
 年になることを願い、皆様のご健康
 を祈念いたしております。

(三宅島社会福祉協議会)

三宅島災害・東京ボランティア支援センターからのご挨拶

明けましておめでとうございます。
 今年こそ、皆様にとって希望の年と
 なりますようお願いいたします。
 皆様と共に歩んだ永い月日、様々な
 人々との出会い、予想外の経験、た
 くさんの時が流れる中で、貴重な気
 づきを積み上げてこられたことと思
 います。
 今、皆様と共に待ちつづけた時を
 経て、

希望を胸に新たな暮らしの再生に向
 けて、歩みが始まろうとしているよ
 うです。
 厳しい冬をじっと耐え、大地の下で
 しっかりと根をはり、明るい春の日
 ざしの中で花開く野の草のように、
 今こそ、三宅島の暮らしの新生に
 向かって、すべての皆様が手を携
 えて歩まれますことを、心から、
 希望します。

(三宅島災害・東京ボランティア支援センター 事務局長 上原 泰男)

みんなの声

大崎さんの三宅島通信

昨日24日(火)、本来なら、27日ま
 でに段階的に出島するはずが、年末
 にかけての天候悪化が予想されるこ
 とから、急きょ一斉退去となりました。
 カメリア丸に600余人が乗船して、
 あたふたとクリスマスイブの竹芝
 に戻ってきました。

私の働く正大ストアでも、発注して
 いた山崎パンを急きょ笹塚店にまわ
 してもらったり、他の品を発送中止
 にしてもらったり、27日までの予定
 ですでに仕入れていた野菜やハム
 などの食料品を処分したり、保存
 対策をしたりと大わらわでした。

工期の決められている建設会社の人たち

も大変そうでした。出航が昼の12時なのに、10時頃まで重機を動かして仕事をしているところもありました。

新年は1月6日の夜の直行便で三宅に渡る予定です。

平成14年は、ほとんど三宅島で働いて過ごしました。その中で気が付いた島の自然の様子を書こうと思います。

まず、農民の最高の協力者といわれるミミズについて。

初夏の頃のこと。土を掘ってもミミズの姿が見えません。噴火前なら、スコップでひと掘ると何匹も出てきたのに、いくら掘っても掘っても出てきません。大変なことになっている。背筋がゾーッとしました。

ミミズがいないなんて。沈黙の大地になってしまったのだろうか。それでもあきらめずに掘っていると、有機質のたくさん埋まっていたところから、やっと、2、3匹のミミズが姿を現わしました。ああ、よかった、大丈夫だ。だけどその後は、また見つかりませんでした。

そして、この秋のこと。また土を掘って見たところ、あちらからも、こちらからも、少しずつぼろりぼろりとミミズが姿を現わしました。噴火前と比べ話しになりませんが、それでもこのひと夏の間に着実に繁殖し、広がったようです。ミミズがいる。土は大丈夫だ。私は安心しました。

次はハンノキ林について。

2年前の8月18日。島中にベツタリと降り積もった黒い火山灰で、家も道路も畑も、そして林の中もすべておおわれてしまいました。あれから2年余り、3回目の冬を迎えて、灰の積もったハンノキ林はどうなっているのだろうか？

ハンノキ林につきものの竹は元気です。そして、いろんな木草も元気です。彼らが少しずつ落とす枯葉は、すでに灰をおおい隠し、幾重にも積み重なって薄いジュータ

ンを形成します。その上を様々なツル植物が這いまわり、短かな根をおろして落ち葉に食いこみます。そして、降った雨をその落ち葉のジュータンが吸収します。

そこには、噴火前と同じハンノキ林の光景が広がります。自然は休みません。豊かな大地を作り続けています。そんな復活するハンノキ林の前に立つと心がときめいてきます。

そして私は夢見ます。若い人々が、竹を抜き、ハンノキを伏せ、鍬をふるって黒々とした畑に変え、里芋やアシタバの青々と育つ畑になることを。

私は夢見ます。年寄りたちが、身体をいたわりつつも、楽しく畑仕事にいそしむことを。

ハンノキ林のもたらす恵みが、私たちに豊かにしてくれることを。

(武蔵村山 伊豆 大崎 興洋)

あけましておめでとうございます

迷える羊達は迷うことなく、2003年のトビラを開けてくれました。

ひつじ年に三宅の風はどのように吹くのでしょうか。桜色したさわやかな風がみんなの頬を撫でてくれるのでしょうか。

何か、不穏な動きがありそうな世の中(世界情勢)ではありますが、三宅島島民の郷土愛のパワーで前進あるのみ、乗り切って行きましょう。

(北区 神着 葛西 梢)



今年もよろしくお祝い申し上げます。

事務局一同